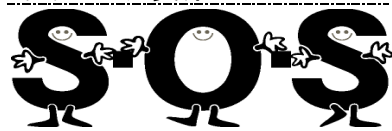


◆通所介護ナイス・デイ◆訪問介護ナイス・ケア◆小規模多機能型居宅介護ナイス・ホーム◆住宅型有料老人ホーム愛宕の家◆有料職業紹介つしま紹介所◆学童・託児ナイス・キッズ◆喫茶てのひら



vol. 166通信
H26年6月9日発行

発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

利用状況案内板 (☆募集中 ★満員)

★ナイス・ケア

★ナイス・デイ (定員10名/日)

日	月	火	水	木	金	土
6	7	7	5	5	7	6

★ナイス・ホーム(登録者17名/定員21名)

★愛宕の家(入居者17名/定員17名)

★つしま紹介所 ★ナイス・キッズ

★打太鼓・6月生(新メンバー)大募集♪

～上記を参考にご利用下さい～

《6月予定》

10日 外食DAY
社内介護実技研修
10日～15日 カニエ花菖蒲
18日 社内救命講習(消防署対応)
20日 避難訓練
22日 打太鼓発表会出演
24日 社内救命講習(消防署対応)
25日 誕生日会
月末～7月初アジサイ寺(稲沢)

《不定期行事》

その日の天気や意欲等で状況判断して、外出先一覧を参考に社会生活参加します

人生の思い出／愛宕の家

入居者さんに若いころの話を聞いてみた。「いろいろあったわねえ～」と言うAさん。(スタッフ)「今まで一番良かった思い出って何？」(Aさん)じっくり考えて「別にないわねえ～」。(スタッフ:えっ?ないの?) (スタッフ)「じゃあ、今まで一番悲しかった思い出は？」(Aさん)即答「好きな人に会えなくなったこと!」。(スタッフ:思わず絶句。) その人とのエピソードはこの場ではお伝えできないが、思い出話をするAさんの表情は、まさに乙女そのもの。90年余の人生一番の思い出がそれって…。ちなみに少し気になったのでご主人のことを聞いてみた。「優しくていい人だったわよ～」なんだかほっとした。自分が90歳になったらどんな思い出を話すのだろう。Aさんの半分の年齢の私には話せるようなことはないな…。 (K・T)



利用者及びご家族等の皆様へ

介護保険法に基づき、愛知県の実地指導が5月20日(火)にありました。指導により、契約書及び重要事項説明書等々、記載内容の改善が必要と判断されました。弊社の介護サービスを利用している全ての利用者及びご家族等の皆様に、再度、契約締結等に係るお時間を頂戴するようお願い致します。再契約、再アセスメント等については可能な限り事情に合わせ訪問対応します。何卒、ご協力をお願い致します。改善内容は以下の通り。

《契約書》

① 書類の保存期間2年→5年に変更

《重要事項説明書》

① 営業時間とサービス提供時間の違いが分かりやすいように見直し

② 苦情申し立て機関・・・事業所、津島市窓口、国保連合会

上記に加え、通常の実施地域の市町村窓口全てを追記

③ 交通費(通常の実施地域以外)の算出説明文・・・説明文の見直し

④ 署名代筆者の住所氏名欄を追加

《個人情報使用同意書》

① 使用期間サービス利用契約期間中

→サービス利用について相談を受けた日～サービス提供の終了日までに変更

② 事業者の記名押印→事業者宛の記載のみ

③ 署名捺印代行者欄の追加

《個人(利用者)の基本情報》

① 様式を見直し、詳細情報の把握を行う。

※その情報を基に、個人に適したアセスメントを行い、サービス提供を行う。

実施指導を受けて/ナイスケア&ナイス・デイ&ナイス・ホーム&愛宕の家

今回の指導は終日に渡りました。指導職員は、愛知県より3名、津島市より2名。

介護保険法・労働基準法・社会保険法等、多様な法令を熟知した方が対応されたと感じました。指導項目は多岐に及んだものの、全てにおいて納得。平成12年4月、介護保険事業者として、『実態(介護サービス提供)ありきではなく、経緯の把握や書類の見直しも重要だ』と邁進していた頃を思い起こしました。他県の方との話では、“愛知県は厳しい”と話を聞きますが、法令遵守と考えれば当然の指導でした。指導項目を早急に改善するとともに、より一層の精進が必要だと捉えています。(A/H)

自宅で過ごす意味/ナイス・ホーム

入院中、前任ケアマネ・ご家族・ケースワーカー・看護師等と何度も話し合いを持ち、何とか自宅で見る方法はないかと模索し、やっと小規模登録を決意して退院したKさん。退院時は看取りや再入院になる事を覚悟の上だった。関わり始めて早2ヵ月。毎日の関わりの中、熱いタオルで顔を蒸らし拭く。『気持ちえ～なあ。』と返答がある。

天気や体調を確認しながら、タイミングを見計らって車イスへ移乗。(アッカンペーとされるが・・・)『庭が見えるなあ～』と一言

呟く。「ひげ剃るよ。どう?」と確認すると、手で顎を触り“OK”の合図をくれる。等々。訪問でも通いでも毎日同じスタッフが関わることで、最近は笑顔でコミュニケーションが取れるようになってきた。家族・かかりつけ医・訪問看護・福祉用具、小規模スタッフ。周囲の協力を得て、最初に懸念した即再入院や看取りなどは遠ざかり、今も在宅生活を送れている。家に居て、家族の声が聞こえる。昔からの友人も訪ねてくる。馴染みの環境の中での生活が一番嬉しいと感じられる。小規模事業所の一員として関わり、最後まで他愛ない会話を続ける幸せを感じていたい。(I/S)



注意：文章と写真は関係ありません

介護と看護・終末期を迎えたSさんの記録/看護師

私が『一人で安全に入浴介助をしてほしい』と主張した理由。身体に与える影響をクリアする必要があったが、移動時の呼吸状態や循環状態の変化から、身体にかかる負担は少ないと判断。そして機能的にも全介助する必要性は少ないと考え、残存機能(上肢と切断された右脚)を生かした介助が可能だと思った。

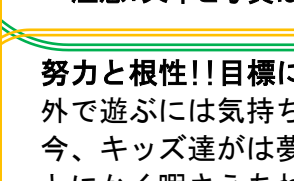
次に精神面に与える影響を考えた。Sさんは自分のペースを壊されることが極端に怖く、不安になる人だった。Sさんのペース、空気の流れ、言葉の一つ一つ、そういった物を大切にしていた。では、Sさんのペースがどうしたら守れるか。当たり前な事だが、一番難しく見逃されがちな、『一人の人間が責任を持って相手と関わりながら介助すること。そして確実に次の訪問担当者に繋げていくこと』だと考えた。

訪問介護に関わるスタッフにとって何が不安なのか、一緒に入浴介助に関わり、身体状況を一緒に確認しながら入浴方法を検討した。ベッドから車いすへの移乗方法から始まり、具体的にどこに車椅子を置き、何をし、どのタイミングで何をやるのか。Sさんにも慣れてもらい、自分でできる部分を理解してもらい、協力してもらった。介助方法の修正の日々だった。そして、訪問介護担当者一人での入浴介助が始まった。

骨折したままの大腿骨、脚がぶらんとしており、動かす角度によって痛みが出る。Sさんもパニックになる。Sさんも訪問スタッフもそれはそれは怖かった。『一人で介助できる』と言った私自身が二人で全介助の方が良いのではないかと、どのタイミングで一人介助から二人介助に変更する判断をするべきか自問自答の日々だった。ある日、Sさんに『もう、お風呂嫌だ～って思う?』と聞いたら、『最初の頃はね。でも、もう慣れた。息が合うようになってきた。嫌だなんて思わんよ。』と笑顔でお風呂へ向かった。

その一言に私は救われた。亡くなる9日前までお風呂に入っていた。(続く) (M/T)

注意：文章と写真は関係ありません



努力と根性!!目標に向かって.../ナイス・キッズ

外で遊ぶには気持ちの良い季節!!

今、キッズ達のは夢中になっているのが“ブレイブボード”

とにかく暇さえあれば乗っている。4年生の女の子は、男の子達が乗っているのを見て、「どーしても乗りたい!!」と練習する。この「乗りたい」という気持ちは大切で、練習を重ねると乗れるようになってしまうのだ。先日は、1年生の男の子が自転車に乗れるようになった。皆のいない時に一人で地道に練習していたようだ。この日、その瞬間を見て、そこを通りがかったスタッフは、皆が口を揃えて「わー乗れるようになったね♥」と声を掛ける。シャイな彼の顔にもさすがに笑みが…。ちなみにこの1年生、自転車に乗れるようになったことで自身がついたのか、ブレイブボードも乗れるようになった。子どもの想いつつ強いな～。キッズ達の“努力”と“達成”の瞬間を目の当たりに出来る喜びを感じつつ、私はいつまで経ってもブレイブボードに乗れない悔しさを痛感する。(R/W)



編集後記

最近、ある出来事をきっかけに、「自分は気が短いのかな?」と思う事があった。(自分では長いと思ってた...)自分自身の事は自分が一番良く分かっていないのかもしれない...

介護は人と関わる仕事。そんな仕事をしている自分が、自身の事を分かっていないのはどうなんだ?いかんいかん...利用者さんのため、関わるその他の人のため、そして自分のため。ちゃんと自覚しながら言葉や接し方を気にして行こう。そして、そう思えたこの一瞬を忘れずにいよう。(Y/O)

小学1～5年生KIDが4コマ漫画を描き、その中で選りすぐりの一枚を大人が選ぶ。掲載

マトリョーシカ

